

(事務局)

地域おこし協力隊事業の補足をさせていただくと、南加茂台地域は、昔は人口が多かったが、今は減少している。南加茂台の今の姿は木津川市にとって珍しい姿ではなく、今後、高の原周辺等についても同じような状況になっていくであろう。最初にまちびらきをした南加茂台地域が早くに少子高齢化が成熟を迎えただけで、今後、同じ課題は市全域に広がっていくと思われるため、今の間に南加茂台地域でこういった処方箋を描くことができるのかというのを外の目を入れて考えてみようということで、南加茂台地域に地域おこし協力隊に入っていた。自分達が住んでいる地域と違うところの取り組みなので興味がないというのではなく、多くの方に興味を持っていただき、南加茂台の今回の取り組みが一つの成功事例になるよう、みんなで応援していきたいと市役所全体で思っている。

今日は、このような形で、本来とは違うところに出向いていただいて、お話いただける機会があったのは良いことだと思う。社会教育課としても、南加茂台公民館というフィールドを、こういった違う目で活用していただき、今まで公民館に来られなかった方も、栗本さんを通じて来ていただけるかもしれないので、そういった相互の地域と社会教育施設との交流が新しく生まれるきっかけになれば良いなということで、社会教育課としても応援をしているので、委員の皆さんも是非応援団として関わっていただきたいと思っている。

(委員)

南加茂台は、まちづくりの際に集合住宅を作らなかった。城山台などは、集合住宅があり、入れ替わりがあるが、南加茂台はないので、そのようにした方が良いのではないかと。

(事務局)

当時は、同じような住宅ばかり作っていた。集合住宅ばかりのところは集合住宅ばかりで、南加茂台は戸建住宅ばかりである。これは、まちづくりに統一感を持たせようと思い、あえてこのようにして同じような所得層ばかり集めていた。そうすることによって、商店や公共交通など、同じような方に向けて、一つのサービスで統一することができるので、まちづくりとしては効率的だと思われていた。そうすると同じ年齢層ばかりになり、一気にこうなるということは、当時は意識していなかったと思われる。その反省を生かして、今は学研の開発においても木津川台では集合住宅が入っていたり、木津南地区や木津中央地区に関しては、集合住宅の地域を設定しており、ある程度住民が新陳代謝するように考えて作られている。そうすることによって弊害というものもあるが、まちづくりをする上では特に力点を置いて、どういうまちに成熟することを目指してまちづくりをするのかというのは、初めの計画の段階で周辺地域の方々と議論する必要があると思う。

(委員)

今、困っていることは？

(栗本(協力隊))

ひとりで活動しているので、人手が足らず、困った時にすぐ相談できる相手がない。地域の方々には、凄く親身に相談に乗っていただけているので、助かっている。

②令和8年度社会教育の重点について

資料を基に事務局より令和7年度社会教育の重点(案)について、説明を行った。

(令和7年度からの変更点)

・基本目標2-(3) 公民館事業の充実の波線を削除する。

公民館まつりの形式について、公民館サークル連絡会など関係者間で一定の整理ができたため。

・基本目標3-(3) 小さな発表会や体験講座の定期的な開催に波線を引く。

生涯学習の裾野を広げて、参加者の固定化を防ぐために、サークル活動の体験会やニュースポーツの体験講座などに力を入れるため。

・基本目標3-(3) 講師派遣事業の推進に波線を引く。

今年度から地域学校協働活動で取り組んでいる「企業・団体ボランティア登録」の積極的な活用を図っていくため。

③令和8年度社会教育事業の予定について

資料を基に事務局より令和8年度の社会教育関係の事業予定について、説明を行った。

④部会(計画実践部会・施設運営部会)からの報告について

両部会共に5回目の部会を開催し、協議内容について、各部会長から報告があった。

◎計画実践部会 1月21日(木) 本庁5階委員会室にて開催

木村部会長から次のとおり報告があった。

第2次木津川市生涯学習推進計画における進捗管理の様式について、他市町の様式や市の総合計画、男女共同参画事業の調査票を参考に検討を行った。

その後、相楽台小学校で開催していた放課後子ども教室のスタッフ研修会の視察見学を行った。

◎施設運営部会 2月20日(金) 奈良市立北部図書館にて開催

三上部会長から次のとおり報告があった。

当日は、川井館長及び司書の呉服主任から図書館の概要や事業について、説明を受け、その後、館内の見学を行った。

⑤生涯学習推進計画各施策の現況と課題について

議題⑤については、前回の会議でも議論していたが、時間がなく持ち越しとなったため、その続きを行った。

(事務局)

前回の会議でも沢山ご意見をいただき、時間が不足するという状況で、会議としての意見が集約されるような状況ではなかったため、意見を反映して様式を見直すことはしていない。木村部会長からも報告があったように、部会の方でも様々な事例を参考に検討され、こういった様式が良いのか意見をお持ちの方もおられると思うので、もう少し議論を深めていただき、社会

教育委員会として一定の方向性が出れば、それを受けて事務局の方で案を提示させていただきたいと思っている。昨年の夏以降、事務局の方から素案という形で提示をさせていただき、それに対して、ご意見をいただいて、計画の項目に沿って抜本的に見直し、取組方針等を付け加えて、皆さんのご意見に沿うような内容にバージョンアップをしてきたつもりだったが、まだまだ様々なご意見があるようですので、ある程度ご意見が出尽くして、一定の方向がまとまった段階で、もう一度新しくお作りさせていただきたいと考えている。

(委員)

基本目標Ⅱの(2)の現在の課題について、生涯学習に関する市の方針と関係機関の方針が一致しないこともあり、円滑な事業実施に向けてさらなる意思疎通が必要と認識しています。とあり、今後の方向性では、引き続き、関係機関との意思疎通を図り、連携を強化します。とあるが、もう少し具体的に教えてほしい。

(事務局)

例えば、社会教育委員会でご意見を受けて、社会教育課として既存の事業をこう変えたいと思っても、複数の団体と共催をしている事業や実行委員会形式で行っている事業については、我々の思いだけでは変えられないところがある。その代表的な事業が生きがい大学である。この事業は、社会福祉協議会、老人クラブ連合会、社会教育課の3者で運営委員会を設置し、その中で内容等を協議して行っている。これまで推進計画の策定にあたってのアンケートや、この場の議論においても、もう少し学習に重きを置いた講座や内容を充実させたような生きがい大学にしていけないのか、参加者同士の交流をもっと持てるような内容にできないのか、というようなご意見をいただいている。そのことについて、運営委員会で提案し、そういった内容にできないかと努力をしているつもりではあるが、一部の委員の方は、今の形式が参加者にとっては良いものであるという意見をお持ちの方もおられるので、なかなか議論が深まっていけないところがあるため、このような表現になっている。3者で実施をしているので、そこで木津川市として、また別の事業を開催するとは言えない。今までの関係性や生きがい大学以外の連携もあるので、そういったところに影響が出ないように、こういった方向性が良いのか十分熟議をさせていただいた上で、方向性を変えていこうということになれば、そのような形で実施をしていきたいと考えている。

(委員)

ボランティアがない、リーダーがない、人手不足というのは、基本計画の3つのどれにも該当する課題である。例えば、ボランティアを行うにあたり、インセンティブを取っている自治体がある。インセンティブがあれば意欲を燃やす方もおられると思う。これから地域協働社会を作っていく上で、そういったことも考えられないかと思うが、いかがか。

(事務局)

良いアイデアだと思う。そういったことを踏まえて、予算措置が必要になる面もあるので、我々も検討していきたい。まずは、近々に不足していたボランティア、放課後子ども教室の有料のサポーター、地域学校協働本部の学校サポーターの方のインセンティブについて、謝礼金を令和7年度からアップさせていただいた。それでも十分な額だとは思っていない。そういった面で、実費保証の意味合いを込めて、まずは、これまで自腹を切っていた部分でできるだけ軽減を図っていく、それプラスやりがいとかプラスに繋がる部分として、そのようなポイント制でインセンティブを付与していくようなことについて、検討には十分値すると思う。こういったことが

あればボランティアに参加していただきやすくなると思うので、このようなご意見をこの場で積極的にいただければありがたい。

(委員)

ボランティアの考えはいろいろあるが、やはりボランティアはボランティアなので、お金はもらわないというのが私の考えである。ひとを集めるのは、魅力作りだと思う。まずは魅力作りが重要で、お金のことは、あまり拘らなくても良いのではないかと考えている。

(委員)

魅力は大前提である。放課後子ども教室を加茂小学校でやろうと思っても7人しか集まらず、メンバーも高齢である。メンバーを集めるにあたり、体験型というのもやれば良いと思うが、ボランティアを体験するというのも難しいので、何か良い方法がないのかなと思う。

(委員)

ボランティアがなぜ高齢者が多いかという点、高齢者は自由な時間が多いので、そういう点で多いと思われる。高齢者がなぜボランティアするのかというのは、もちろん魅力がないといけませんが、仲間づくりとかもあるが、ボランティアをして体を動かすことによって健康になる。シニアにとっては、イコール健康というのは、すごく大切な要素である。

(委員)

先日、小学校時代の集まりがあり、ボランティアの話をした際に加茂小学校はないの?と聞かれた。今、立ち上げようとしているが、なかなか人材がいなくてと説明したところ、是非やりたいという方がおられた。

ボランティアをするにあたり、ひとそれぞれ感じ方が違う。インセンティブの話であるが、いろんなケースがあって、ちょっとでもいただけたらありがたいという方もおられれば、ボランティア精神なのでいらないという方もおられる。今の時代は、感じ方がいろいろ違うので、お金がどうかということ、あとでついてくるものではないかと思う。

ひとを集めるには、貼り紙をしたところで、なかなか集まらない。ひとからひとへ話をした方が良いのか、ひと探しの方法は難しい。

(事務局)

今回、ラインで情報発信を行い、民生児童委員さんをお願いをして、地域の方にチラシを配布していただいた。その他、区の回覧をしていただき、学校から保護者に対してチラシの配布をしていただいたが、この人数しか集まらなかった。他にアイデアがあれば、是非教えていただきたい。

(委員)

放課後子ども教室のボランティアの件だが、難しいとは思いますが、例えば、大学と連携したり、木津川市には京大の大学院もあるので、大学側としては、市町村と連携を組みたいと思っている。今までの流れで難しかったのであれば、ワンステップ切り替えて取り組んでいくのも必要ではないかと思う。

(委員)

京田辺市の方で有償ボランティアをされているという話をお聞きしたことがある。そのような制度があるのか一度確認していただき、そのようなことがあればボランティアの幅も広がっていくのではないかと思う。

(委員)

大学との連携の話があったが、高校との連携ということで、木津高校生が放課後子ども教室に来てくれた。また、木津小学校の「きっずひろば」については、人材不足で開けなかったが、木津高生に来てもらい、防災教室を行ったところ、子ども達は大変喜んでいて、高校と連携ができたので、次は大学生と連携できたら良いなと思っている。

3. その他

次回会議の日程調整を行い、4月15日(水)午後1時30分から開催することとなった。

4. 閉会

木村副委員長から閉会の挨拶があった。

以上

その他特記事項	なし
---------	----